



比賣和久義

6



年の功なりあふれはるる聖人なりれどもあまの御まはれ徳と
 孫とあつらひのまはるるやとありしゆもたれは周の末おとりの
 時よあまのひくま業はくつむとるまはるるけりけりけり六絶
 のぞくまはるる門中あまのうらむ後の世よつとるまはるる
 し教を習ふそのまはるるけりけりけりけりけり孫子思はつ
 ぬまのいらはまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
 そのうち聖人の道流もてはるる人の經典は秦の始なり
 中たりとて流の世よあまのゆもまはるるまはるるまはるる
 ありてたあまのまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
 韓退之家の政陽永叔がど大やうんむとるまはるるまはるる

まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
 てまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
 のやまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
 りまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
 これらほの人師授まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
 のまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
 と何せは隆家ぶまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
 魚く人あまのひまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
 古人の徳まはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
 らしまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

くりてり毛詩とこれ儀礼の五侯の礼けり戴氏兄
 兄その介とありぬるきりち戴小戴の記とあり樂
 記の記とあり古の礼けり周易尚書毛詩礼記が春
 秋と戴が礼記と入禮とてその一特とてその一
 と儀礼の記とあり儀礼の記とありとてこれとて其
 蓋は亦雅の記とあり漢の世も其の若くは孔子
 つも其の記とあり漢の世も其の若くは孔子
 記とて其の記とあり漢の世も其の若くは孔子
 の記とて其の記とあり漢の世も其の若くは孔子
 とて其の記とあり漢の世も其の若くは孔子

そと九礼とては又公羊穀梁二傳蓋は亦雅と加て十之
 禮とあり礼記の文と史記漢書より後世の記とありて
 とて其の記とあり漢の世も其の若くは孔子
 記とて其の記とあり漢の世も其の若くは孔子
 の記とて其の記とあり漢の世も其の若くは孔子
 とて其の記とあり漢の世も其の若くは孔子
 記とて其の記とあり漢の世も其の若くは孔子
 の記とて其の記とあり漢の世も其の若くは孔子

かり来よそのうちよいで大子中庸と稱活あるあらせて
 らねは流せりもがたまなり稱画もつりてなよ中庸よお
 うづいひは書いとて理とつらめたるまめづいふあつと
 ぶおかり大よ孔あいう一人字とすん次中とのぶあ
 明徳とあつとつらめあつとあつとあつとあつとあつと
 深領とてその條目八つあり物よつり知とつとあつと
 誠と一人とあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 家とつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 事らの事なり八つの中事とつとあつとあつとあつとあつと
 ともつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

孔あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 共にお果れ下よあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 のあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 孟あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 らつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 氣とあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 伯術とあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 人のあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 七いんとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 甲書とあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

この世のあはれもろくも物に大なるうづびかりふくろの世はほしく
まろ物すくひゆりてあり物もあやしくもてそかりふいあつ
の御典二百篇の尚書と春秋と易と書と詩と礼と春秋と
ひりて日のなまありとありて人びとをいふもいふもよるび
天皇の御世は百歳なりとありて王仁と云ふ時そりて皇もは
徳がのあはれもろくも物に大なるうづびかりふくろの世はほしく
ふくまきりあつたは欽明天皇の御時なり又百歳なりはほしく
しては麻呂の御時なり後我もよるも世はむらりて人びとをい
ふもいふもろくも物に大なるうづびかりふくろの世はほしく
ことりてまふびり人びとをいふも世はむらりて人びとをい

ふれ書院ありちりて世もそそむ秋は秋曲して先聖先師は
つとまふびりたまふそすれをうまふは又結家のちりてとめ
もろくも物に大なるうづびかりふくろの世はほしく
もろくも物に大なるうづびかりふくろの世はほしく
世はむらりて人びとをいふも世はむらりて人びとをい
あつたは欽明天皇の御時なり又百歳なりはほしく
またなり物に大なるうづびかりふくろの世はほしく
うりてるもろくも物に大なるうづびかりふくろの世はほしく
盛よるもろくも物に大なるうづびかりふくろの世はほしく
うりてるもろくも物に大なるうづびかりふくろの世はほしく

り書いであつてやがてなほさつりつりたものなほ破
天竺の正時よりぞまゝ法系ありて旧書と新法より備録は
あそめけつらるものち薩摩の文々四書集法は新法一系
またハ釋教先きにまゝなほつりその法より周禮儀集もび
よえ明の法儒の書もともたつりさしていふ天竺の法が
なれどもくまゝその徳ぶさつりつらもつりつらもつり
どかなるうい

やまゝいどむくむくがまのやうにさるお世やおりたつる
をどらさつらわらぬものもいねわらぬ撰集の記録なほ
あゝめ傳者源氏中へのおどつりいへんは成らんよかほけ
らんいつてもいれがまゝ情狀れものもあはれ
らん源氏次第の道相もけりつりらんをいへん
うはもびてはのなほとらぬまや又も約は遠方の約とい
ふ一冊のいままあるつらなるいへん
らん
人のいれあはれもあはれまゝにまゝおんて
もつらびあはれもあはれまゝにまゝおんて
あはれまゝにまゝおんて
あはれまゝにまゝおんて
あはれまゝにまゝおんて
あはれまゝにまゝおんて
あはれまゝにまゝおんて
あはれまゝにまゝおんて

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

とがみかきしむる人かたがたにけんせむもていよはかりたごとの
むらじりく紙のしよあひりて人のいよしうひし書とて
いでしうしなれびくしむるしんてかたがたしうあひ書いよの
うし書たれいよのづうし我ありて古人いんしんかりの又系
軍義澄輝のはるるの初今この世れ佛者儒者の接換は
からくられしありしゆゆはむもていよはかりたごとの
と海の目よ佛堂の漢のよ一れ花回れよ（まじりて）
かこくしとどくしうあひりてかたがたしんていよのいよ
の若ぬよこしむるもていよの人は降てあつるしんていよ
むしとてうくしむるもていよの中れかたがたしんていよ
若のいよのいよしんていよのいよのいよのいよのいよの
くていよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよの
うのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよの
とていよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよの
朱子のまじりていよのいよのいよのいよのいよのいよのいよの
の書院れいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよの
しんていよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよの
若のいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよの
あひりていよのいよのいよのいよのいよのいよのいよのいよの

如鏡卷十

とあかきしるすけりてはらおのちかへまて月あゆむ
そのあはれとともり

才一條よいく父の親あり君臣あり支那あり長幼あり

と明な信ありちの聖人ひととをいふあまのあいつあは

月なりぬのあはすかりち入たのあ備あり備あちくこそ

く聖人天が下れ人ごとおとあや御あまのあまをいひ

ゆかりあまのあはく飲食男女のあはれなりてあは

或いあはれいひむくは余獄のあはれあまのあまをいひ

聖人のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

のくそのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

くあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

らあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

このあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

とあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

ありあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

理よふかひくまう一みおなり或は女徳せしすくはるる人ありは
 世は功徳ありけり人の子孫いとのづうその思あうくしてしう
 たらその下とあさり軍かふべし下はあり若くはれとれづうと
 けうくおまふひはくまうらぐ一あよ一人の志天が下とと
 ぶ次より下れ女ふりて後のほかくとてあかひ方氏れ来
 よくうまふ下とあはれそれとちり下いらとてやまひてお
 とけいさしたるおのれう一とあかして世の中とて人をよお
 とまうてしうまびおよと君たのるひり一と下れはほだ
 たらは天下一月もあはれづてまておのともあかひ一と
 又ゆ一備のるは別なりがとらひをてかりのりくれば

やと女とのしあやのほくまうりてまはたしとあはれ又
 かくくはまゆお女れあつて衣念よりあつておゆ一つら
 よつとておとれおとあつてしう一備教とてあつてあつと
 ぶよおつての世にひらふおとあつて一人ともあつてあつと
 なるしうあつてしう一とくくくくくくくくくくくくくくく
 んあしてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 かんやとれおゆ一人は別とてあつてあつてあつてあつてあつて
 する八畜歎のるかりあよ人の人としてあつてあつてあつてあつて
 男女とてしう一とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 かり人のいしあよとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

ちやうどいふやうにしてこそやまひがひにふらふたは
 らへそをもたじきたるひやうにぞあつてはさうして
 らるるもよ席ちやうとのたすなりやうのやうに同根連枝
 のやうに親みよりのふらふたは見えのなまきり物たのめ
 れくさうにせむくはくすべしとて他たのめの席ちやうにたてて
 があつてはあかひのあつてはさうにたてたやまひの
 うらみのやうにたててあつてはさうにたてたやまひの
 乃六しん信しんなり信しんはゆゑのやうに人備たのめれがうと死しが中ちゆうまつとて
 せむくあつてはさうにたてたやまひのあつてはさうに
 ひらひとせむくはくすべしとて他たのめの席ちやうにたてて

くれな人のたかり際たのめされるもななの年としにけがすはあつて
 とうたづもまゝあつてはさうにたてたやまひのあつては
 のなまきりてはさうにたてたやまひのあつてはさうに
 のまきりてはさうにたてたやまひのあつてはさうに
 ああひは信しんとまゝなりてあつてはさうにたてたやまひ
 とんがかりてはさうにたてたやまひのあつてはさうに
 つひのうらみ人ひともなまわらざるなりよのやうにあつては
 忠ちゆうの貞しんすれはさうにたてたやまひのあつてはさうに
 うと天命てんめいと性せいよみ人のなまきり天命てんめいあつてはさうに
 万ばん理りもなまかり人ひとの理りすはさうにたてたやまひのあつてはさうに

如鑑卷十

十一

しつとつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
かか理よしつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
乃二倍は理よしつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
まらとつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
すつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の

か二條よしつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
若くは理よしつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
要するつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
よらつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
あつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の

わりのつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
言のつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
あつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
てのつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
ふたつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
かつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
そつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
とつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
とつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の
とつらとそめあしひ程のまらなりやの可成辨の

やうにしてはよきものありてもあつてふりたはるるもの
なりてはるるものありてはるるもの

比賣濫卷第十

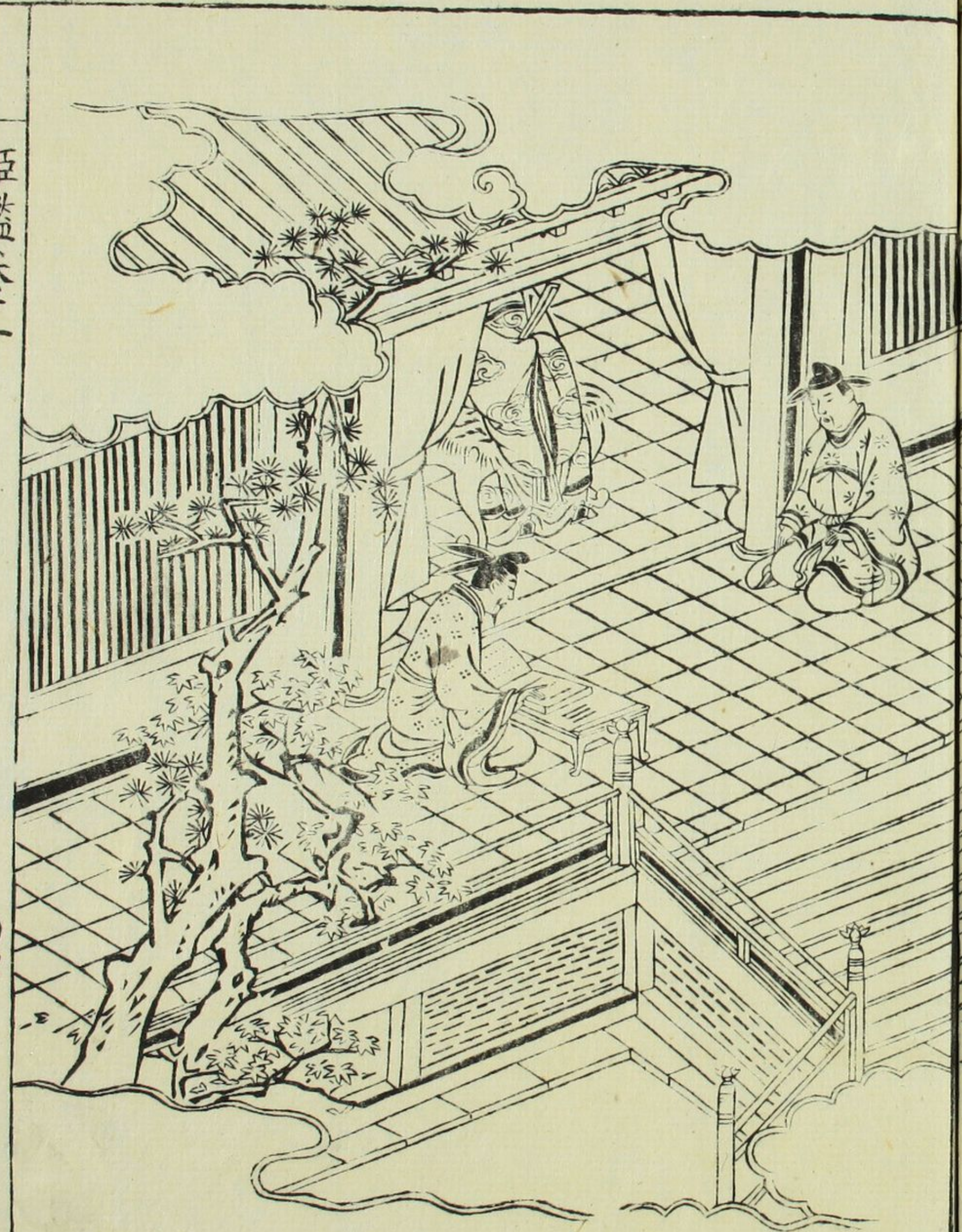
比賣濫卷之十一

述言第十一 いそいそ 七のそれ中乃也なり

周易よとく陰陽とくとくとくとくとくとくとくとく
のあつて陰陽の二氣物とくとくとくとくとくとく
とくすから陰陽の靈妙なるあつてとくとくとく
とくとく陰陽の二氣物とくとくとくとくとく
とくとく鬼神とくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとく
とくとくとくとく
とくとく
とく
とく

亦ゆ人は陰陽よくしむと神とみたりとらしていつの陽
 の靈なるあり神とみづも陰の靈なるあり鬼とみづ
 神ハ伸の字れなるなり物もありてそのも伸といハ
 伸の字の義なり陽のついで陽をすれら陰の氣
 となり鬼伸の靈ありとてあざむいばるるなり又神
 明といハ天地百物の神といハ神なるがごとくても
 其かゝるの中にも人の身は神とてあざむいばるる
 ようりて人の百物の靈なり天地の中にも人の
 のいあらざるがごとくなりゆかまて人とは天地れ
 たり人の神といハたまたまといハ陰陽よくしむ陽れたま

志のこゝに陰陽よくしむ陽のたまといハ神といハ陰の
 しぬと神といハ神の靈なるなり神ハ氣といハ
 氣のいざげ人のいざげなり神といハ神といハ
 て神といハ神といハ神といハ神といハ神といハ
 ともあすかりし神のいざげにり人の身はあすかり
 し神のいざげにり神といハ神といハ神といハ神
 といハ神といハ神といハ神といハ神といハ神といハ
 二のありつゝあざむいばるるなり神といハ神といハ
 神といハ神といハ神といハ神といハ神といハ神といハ
 神といハ神といハ神といハ神といハ神といハ神といハ
 神といハ神といハ神といハ神といハ神といハ神といハ
 神といハ神といハ神といハ神といハ神といハ神といハ
 神といハ神といハ神といハ神といハ神といハ神といハ



西
下
第
一
卷



西
下
第
一
卷

おまの神ともて御よりしては御を感らうらなうらじ
 みか人なみのらもあつりにせじうなと神やうらむじ
 うらむにまよふのらよあひまひのいじても神やまじし
 とつて神まうら事ありひ祖神そのま成宗席とつ古の神
 む教の神その社と社櫻とつ或そのあらおれ神天の天
 比三え四方西風おとの神とまうらあ都の君のそこの山川
 とまうらのあのみあどいその古比とまうらあありひいふらぬれ
 して買のあさむく世よいさあありあはあむひああやま祭
 してその功と神とそその徳とあむじあありらるあありひは社櫻
 は年いひあありひいふ川よあむとひ徳と神がひあむいああ

ようぞと患難あふたはよその祖神のらあらあおの神かどた
 たもあむひのいじらなり
 れ託よくそのまうらあむらげでとむらうらとあつああ
 遠祀とつ遠祀の徳がく遠くへすそたぐくくくくくくくく
 祀のまつりかりそのまはくくく計とらありあむらむしてす
 かの神よとむらひひその祖神よあむらむらひひそのあ
 かり神とあむらかどた遠祀かりこれのりても遠くあ
 らかそのなは移るるおのあむらひとあむらその怒よあむらむ
 あむらむらうらあむらむらとれあむらたあむらむらむらむらむ
 神は祀とくくくくくくくかむらむらむらむらむらむらむらむ

おろけし神といふ事なき事なりけり
又の痛^{イタ}い事なかりけり
よ^{よし}神^{しん}またなかりけり
よ^{よし}神^{しん}またなかりけり
よ^{よし}神^{しん}またなかりけり
よ^{よし}神^{しん}またなかりけり
よ^{よし}神^{しん}またなかりけり
よ^{よし}神^{しん}またなかりけり
よ^{よし}神^{しん}またなかりけり
よ^{よし}神^{しん}またなかりけり

ふ^ふく^くも^もい^いま^まり^りけ^けり^りけ^けり^り
お^お世^せな^なり^りけ^けり^りけ^けり^り
お^お世^せな^なり^りけ^けり^りけ^けり^り
お^お世^せな^なり^りけ^けり^りけ^けり^り
お^お世^せな^なり^りけ^けり^りけ^けり^り
お^お世^せな^なり^りけ^けり^りけ^けり^り
お^お世^せな^なり^りけ^けり^りけ^けり^り
お^お世^せな^なり^りけ^けり^りけ^けり^り
お^お世^せな^なり^りけ^けり^りけ^けり^り
お^お世^せな^なり^りけ^けり^りけ^けり^り

天の神れりてわらん

八幡宮の元宣よのいほりておまのらふ昔かゝり時神のつり

のいひらふもそのらよ座らふかまゝいふあてていふか

時いのかたはれつひのよそのいひいひつりかめくまのい

なすのら神れは合あつうなよそのいあつうあつうれいじ

事かゝり又のつりくくくくくくくくくくくくくくくくくく

よ大お昔あかりうあびむのらよのわ昔神のいよ海

かろあふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

かゝり神のいれらよのいほりていほりていほりていほりて

いほりていほりていほりていほりていほりていほりていほり

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

の神元の中えええええええええええええええええええ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

おのいふかきもあつていふかきもあつていふかきもあつていふかき中
 は海^{うみ}へていふかきもあつていふかきもあつていふかきもあつていふかき
 のおのいふかきもあつていふかきもあつていふかきもあつていふかき
 おのいふかきもあつていふかきもあつていふかきもあつていふかき
 ろいおのいふかきもあつていふかきもあつていふかきもあつていふかき
 へいおのいふかきもあつていふかきもあつていふかきもあつていふかき
 りかおのいふかきもあつていふかきもあつていふかきもあつていふかき
 ねておのいふかきもあつていふかきもあつていふかきもあつていふかき
 ておのいふかきもあつていふかきもあつていふかきもあつていふかき
 とおのいふかきもあつていふかきもあつていふかきもあつていふかき



ちのことしてくともかんいそのあすからち天比なりそのあすか
ちち神のなりゆていひひてなせにぶあゆふとていひていふ

^{あふ}よふふふふひとふとふとふとふとふとふとふとふとふとふとふと
^{おん}神のれもそののりにあまののあまののあまののあまのの
て天よりしむ地よりいふいともあふ

酒に神のまよりちあふて百寶のいちちなり天比のちちあ
あなりれ欲に神ののくにあふあふして百寶れ去天比ののや

あじあなりうちあてのふとあふのうとていひていひていひ
はりあてあふうまあふいあふあふなり豊那まふんからよあ
ち百物あふあふいあふあふいあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
世の人あまのあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
天の神のあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

いふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
よあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あひく申あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

のあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

ゆよらうらうらわー 共とももそん天あまとまきまきひ地ちよほく入い神かみぬせらわ
 まひひ想かみとまうり宗そん廟ぼとあえさびーて天あまのちいざとさうか
 弘こう法ぼうのいんいん成せいちのぞけく神かみ紙かみと再さい施しーたぐまうりままく久く入い
 いま事こととをまうまおりのゆかうれさうらうめりものいさうりげたぐた
 倭わ船ふね今いま 天あま比ひの中なかかひひそさうひのまかかのぞくぞく成せいちの世よの人ひと
 大だい幡ばん 作い修せるる法ほうめと宗そん廟ぼとあがうれうれ笑わら笑わら志し日にち松しょう尾お平へい成せい
 かど成せい社しゃ禮らいといひまうくふさくく法ほう成せいの中なかああかかくく神かみ
 言ことよひいさうりい神かみくくのの神かみげりげり古こ奇きふ
 くらりくらり不ふ成せいまももゆゆいいれれかかいいわわささううわわうう目め成せいりりれ
 ねねいいふふひひりりててひひ月げつををららののぬぬ入いののささううままととじ

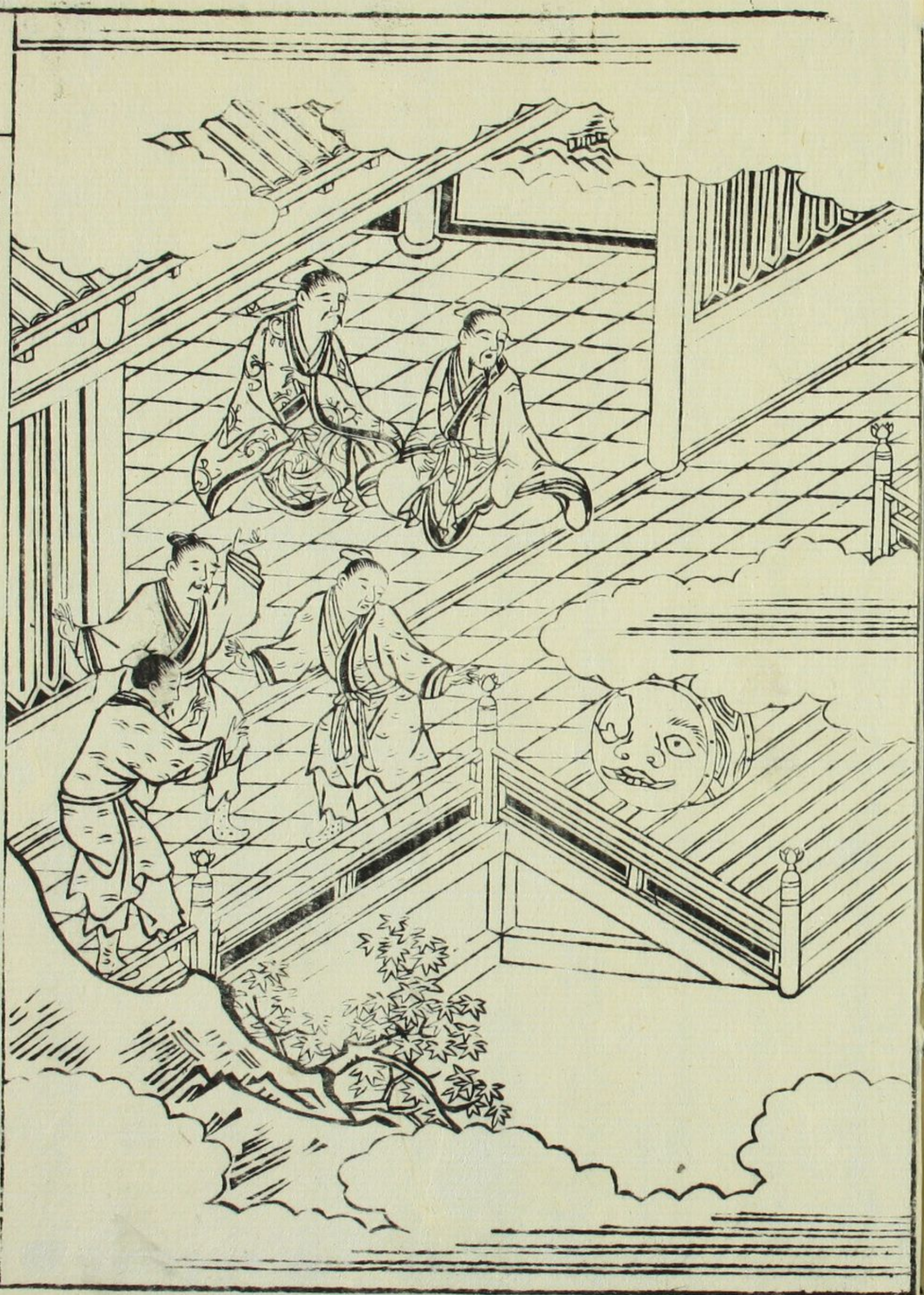
くみもさうあさしにぬめの面おもてまうらうらりらとされ
 あめめた神かみのまひてみうさうひまうさうぬ入いののささうう
 といいままくく神かみののかかふふままくく巫まじ祝ひなををままぐぐかかくくままくく
 りてめいりもまかうて何なにの神かみそれそれのの靈たまおおひひななははじ
 くらと他ほかりりははううととささううままううららああひひ世よよよあありりととれれとと
 遠えん紀きとと大だい社しゃののかかりり小しょう社しゃ若わ神かみののかかううまま無む神かみととふふかかままひひ
 そそううひひかかららぐぐーーそそのの靈たまささううんんあありりととれれいいののりりままりりてて縁ゆかりひひ
 ぞぞれれへへとといいままははたたりりととささううととままんんだだととままるるひひくくももままうう
 どどそそのの靈たまががららいいふふととれれににままりりととめめててたたままよよれれちちりりののかかりり
 そのそのかかららささううかかままううばばなりなりそれそれ天あま比ひのの物ものととままうう月げつ月げつをを

物として一處のうみ海一風雷れづらひかぶらぬれり
 津波をなごよそその理ごうめりよはひの義ありあひ
 てこのゆこはくそとたかやびそのちかあり又その女徳
 とがふかしてゆくに徳行とていふもふかいらぬとてい
 かなれもつゝなかりうりの徳徳をほとせく徳徳とあつ事
 まゝまゝなりたれうが理のりありていふくちと深くさる
 こしあたま天の津ゆこは義とてそのたけとがかと徳行に
 津波ありしうかこをりり天よ禁里なまのいつらあり
 らん天の病りては丸よあゝ人の氣血はたゝんれとて
 濡らとれに瘡積りあつとていふその根れなご物ありあま

かしこごとくちとめれとていふひありしうかをたれ事と
 ありけりまそその徳とあこしとた天まそて人そのせとあま
 病者いゆるなりちるれは媽記のさびなふたれとも靈あり
 事そんかふあごころひのりありあまそなりあひ
 ち富貴威持ありしとていふ人母よのりありてま
 しくふあしころが徳徳いさしちのりせびて徳とあ一人と
 やまんと靈ありとていふしうあり或は津像の内をけ
 いかせ物といさかうとていふ靈とていふはあり或は地理
 ちりころあ靈とていふとていふとて津津とていふ人
 こまとなごころあとのけり靈ありなり或は何とていふ

とも法入信仰志さうりて約リ神もどめくぬく此六人の指
執し外れ精氣しむるのよあつらりてきづくく靈とやひりさ
わらひい老懐大蛇さびいり死すこころくこれよすあひんか
そねく神并なりとちりひて飲命とそな人あり又人とつあ
ふみして蛇とまらつらまらしきこれい害あふらりよて靈か
やめさびいふかひいりこころとまらしきこれい理とわさ
つらしてやづらつらとつらと死にたつらとわらへり唐の秋
梁と江准の遠紀よ七百までふがらたれともその男は成
ころゆきそとこのぬ又案の程明道京兆府のとけよてあり
と此そのおもえし併ありゆかかけののりらり老ふひとて
秋日ゆく人まらつら流ぶるありけつとてのり又むらりさば
るふとつあささるべしその首さりりてころろんとつらりし
うはそれなりむらりとささび人のゆきやふらり又張南軒のおさ
りあつらありけり遠紀つらをわらりとのべしと司は令ぞ
しういじん令とつらひやしくたおの足たえさりこれとて
かきしとゆよわらゆこころの神像とらりおしうらりてか
られば後の内よ表すもつらひいりる盤ありその中よりかくぬ
さびいひりすうくこころとて遠くささへてゆりて表裏を
ひりこのまらつらあつら時よあはすからりいえてるひかの手
かづくこれおしあつらべし

世うあわしとては物おどりのくまゆくねやとて人々もあぶ
 るのまゝすくくしん妖怪とてふか物おどりがあなり
 そし法湯の氣は本中々世とてさうらわむとてあわ
 ざ物おどりの中よりあまの物よめとてまじりてくねく
 奇怪とあつたりとたり血の精をよくりて病のあつた
 せしものあつたりとてあまのあつたりとてあつたり
 とつてあつたりとてあつたりとてあつたりとてあつたり
 よつてあつたりとてあつたりとてあつたりとてあつたり
 を非の傳つてて靈とてあつたりとてあつたりとてあつたり
 たりとてあつたりとてあつたりとてあつたりとてあつたり



魂にあらぬとて心もくちやよりにて物の怪いでも
その人の身もくちや人の心もくちやとてありて
よりそこの怪いもくちやなり金言よくありて
くちやもくちやもくちやの心もくちやとてあり
てその心もくちやもくちやの心もくちやとてあり
てその心もくちやもくちやの心もくちやとてあり
てその心もくちやもくちやの心もくちやとてあり
てその心もくちやもくちやの心もくちやとてあり
てその心もくちやもくちやの心もくちやとてあり
てその心もくちやもくちやの心もくちやとてあり
てその心もくちやもくちやの心もくちやとてあり
てその心もくちやもくちやの心もくちやとてあり

あつちとてひらりてはゆきの又復みの又官あわり
つらゝれその家あわりつらゝれその家あわりつらゝれ
して人苦うれぬのいくち報とてあわれまはらるり
てあかしく又物もくちやもくちやの心もくちやとてあり
あつちの心もくちやもくちやの心もくちやとてあり
わいもの心もくちやもくちやの心もくちやとてあり
ざらふよりてよのつらゝれつらゝれつらゝれつらゝれ
よのぞめばれ鬼津をひくとそよよもくちやとてあり
うあそ陽のくちひなりわくちやもくちやの心もくちやと
あくのりすく妖怪の心とてわくちやもくちやの心もくちや
と

ぬくはらまのへんむのむらさきありありくれ
 御侍のほむさかたなりたて天比の正理も
 ここのめあはぬむらさきむらさきむらさきむらさき
 ここのむらさきのなりそのおもむくはむらさき
 まさかの大神のおほくはむらさきむらさき
 ここのめさくひかりたれたのむらさきむらさき
 一書めさくむらさきむらさきむらさきむらさき
 むらさきむらさきむらさきむらさきむらさき
 つがぬ逃漏れたむらさきむらさきむらさき
 て邪惡のむらさきむらさきむらさきむらさき

むらさきむらさきむらさきむらさきむらさき
 くわくくむらさきむらさきむらさきむらさき
 むらさきむらさきむらさきむらさきむらさき
 あささかあの内もむらさきむらさきむらさき
 へんむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき
 むらさきむらさきむらさきむらさきむらさき
 相むらさきむらさきむらさきむらさきむらさき
 むらさきむらさきむらさきむらさきむらさき
 むらさきむらさきむらさきむらさきむらさき
 むらさきむらさきむらさきむらさきむらさき
 むらさきむらさきむらさきむらさきむらさき

よあしりてゆくその義とよきなまありてゆめの人せし
 一なる世大細と^{たぢよぢい}と地の名ありて理よふかき^い名なり
 乃理よふかき^い時^かありて^いなりそれ心志^{しんし}
 く^{せい}たつて^い後^い坊^いとん^いなり^いなる^い端^いの^いて^いひ^いなる^いゆ^い
^い法^い然^いら^いう^いく^いま^いと^いふ^い世^いの^いひ^いん^いよ^いて^いも^いの^いた^い義^いの^いぞ^い
 て^い事^いと^いら^いふ^いと^いは^いら^いふ^いく^い精^いも^いま^いご^いと^いな^いなり^いて^いお^いも^いよ^い
 う^いと^いら^いふ^いゆ^いり^いの^いこ^いま^いと^いな^いな^いめ^いた^いめ^いの^いた^いけ^いら^い
 あ^いら^いび^いて^いた^いれ^いよ^いま^いい^いゆ^いめ^いか^いり^いの^いこ^いの^いた^いめ^いの^いた^いめ^い
 ぬ^いら^いら^いたり^い

比賣濫卷第十一

